

21.10.10 KT師重賞本命と見解

【京都大賞典】

当コースの上級条件はサンデー系の中長距離型の主流血統。
上位種牡馬がより走りやすいコース。

本命はアイアンバローズ。
父オルフェーヴルは 2400m 以上のサンデー系の中での
勝ち星ランキング(2019 年以降)はディープ、ハーツに続く 3 位。
G1、クラシック実績も残す種牡馬。

他の上位人気を外枠の中、唯一の内枠も土曜の馬場傾向では有利。
2 走前は転厩緒戦の休み明けで同コースを圧勝。
前走はその反動と関東遠征ながらも 1 着。まだまだ上昇が見込めます。

アリストテレスは母父ディープインパクト。
父エピファネシア産駒自体、サンデー系の中長距離型が
走りやすい条件を得意としますが、母父がサンデー系の主流種牡馬なら
その個性はなお強化されます。

近親のリンカーンも同名、同距離重賞の京都大賞典勝ち馬。

過去 3 走は条件、馬場が不向きだったことに加え、
菊花賞と AJCC 好走の反動が尾を引きました。

相手妙味にアイアンバローズと同じオルフェーヴル産駒のダイヤモンド。

【毎日王冠】

超高速上がり決着。

好位につける G1 級のマイラーか、ディープ産駒しか出番のない舞台。

本命はヴァンドギャルド。

当レースでも特に相性の良いディープ×ノーザンダンサーの配合。

当レースを勝ったディープ産駒のエイシンヒカリ、リアルスティール同様、日本の根幹距離よりも、海外や非根幹距離の方に適性を見せるタイプ。

母方もキャリアを重ねて上昇する欧州血統。

日本での近走は根幹距離のマイルばかり。

適性に加え自身も上昇中ですから、日本での最高パフォーマンスも期待。

対抗もディープ×ノーザンダンサーのポタジエ。

ダノンキングリーは適性はもちろん向きますが、

ムラ駆けタイプで前走短縮外枠激走後の延長での人気は信用はできません。